

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成29年度採択）

中間評価（案）（公表用／ソフト分野）

| 番号   | 研究名                            | 研究代表者            | 評価 |
|--|--------------------------------|------------------|----|
| 29-3   | 質の高い交通時代のモビリティの価値の計測手法開発に関する研究 | 広島大学<br>教授 藤原 章正 | B  |
| <p>&lt;研究の概要&gt;</p> <p>異なる時間価値や時間制約を持つ移動主体が共生する超高齢社会において、交通の時間価値の計測方法を再構築する。この手法を3つの事例研究へ適用し、質の高い交通時代の道路事業の包括的評価手法の有用性についてフィールド実験を通じて検証する。</p> <p>&lt;中間評価結果&gt;</p> <p>「交通の時間価値の計測方法の再構築」に向けて、着実に理論研究、事例研究を進め知見を蓄えるなど成果をあげている。しかし、Connected 公共交通システムの公道実証実験の確実な実施にやや懸念があるなど課題がみられることから、指摘事項に留意しながら現行のとおり推進することが妥当であると評価する。</p> <p>&lt;今後の研究計画・方法への指摘事項&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 今後の地元調整等の結果、仮に Connected 公共交通システムの公道実証実験が研究期間内に実施されない場合に、どのようにして、これに関わる「交通の時間価値」を計測し当初目標を達成するのかを検討いただきたい。このために必要であれば、研究計画を修正いただきたい。</li> <li>2. 理論研究、事例研究それぞれの成果を、わかりやすく、体系的にとりまとめていただきたい。また「質の高い交通時代の道路事業の包括的評価手法」について、既存の道路事業の評価手法と比較できる形で、その有用性を示していただくことが望まれる。</li> </ol> |                                |                  |    |

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第36回新道路技術会議において審議したものである。